

科目名		整形外科学実習	
科目責任者	酒井 昭典	(整形外科学 教授)	
担当者	中村 英一郎	(整形外科学 准教授)	
担当者	川崎 展	(整形外科学 講師)	
開講時期:	2～4年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 90 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>整形外科が対象とする運動器(骨、軟骨、筋、腱、靭帯、神経)の機能が障害された場合に、どのようなアプローチで回復に向かわせることができるかについて、実験動物を用いて学び、さらにその意義と問題点を理解し、その手法を実習を通して取得する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実験動物、そして遺伝子操作に関する申請書類を作成することができる。 2) 細胞のシグナル分子の機能を薬理的に抑制することができる。 3) 細胞のシグナル分子の機能を分子生物学的に抑制することができる。 4) 細胞のシグナル分子の機能を分子生物学的に促進することができる。 5) 正常細胞、および障害された細胞に薬理的手法を応用することができる。 6) 得られた実験結果の意義を論じることができる。 7) 得られた実験結果の問題点を論じることができる。 8) 得られた実験結果から細胞のシグナルカスケードを図式化することができる。 			
● 評価方法	検討会での討論40%・発表30%・レポート等30%で総合評価する。		
● 参考文献	実習の中で必要に応じ紹介する。		